

五木村人口ビジョン(概要版)

I 人口の現状

2013年の人口 1,110人

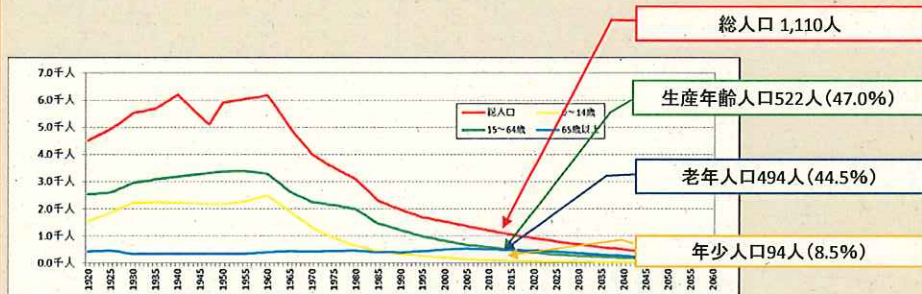
①自然増減

- 合計特殊出生率 1.63(全国 1.41) ⇒ 2007年(1.62)から0.1上昇
- 出生数 5人 ⇒ 1973年 66人 40年前に比べ61人下降
- 死亡数 15人 ⇒ 1973年 35人 40年前に比べ20人下降

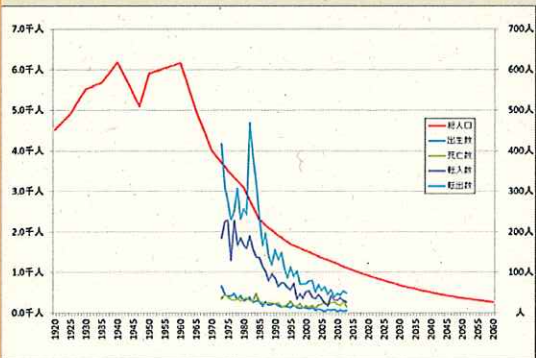
②社会増減

- 転入数 25人 ⇒ 1973年 185人 40年前に比べ159人下降
- 転出数 49人 ⇒ 1973年 417人 40年前に比べ368人下降
- 転出超過先 熊本市5人、人吉市8人、八代市5人、福岡県6人等 ⇒ ほとんどが県内
- 転出超過の主な年齢層 15歳から24歳11人 ⇒ 殆どの年代が転出超過、特に若年層が多い

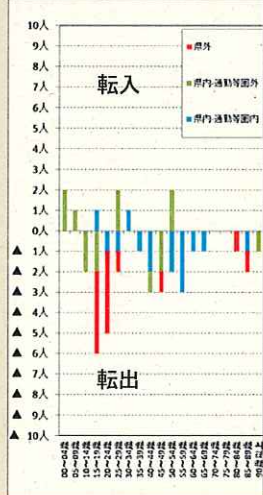
年齢3区分別人口の推移



自然増減、社会増減の推移



年齢階級別人口移動の状況(2013年)



II 人口の将来展望

2060年の人口 558人

このまま何も対策を講じなければ、**2060年の人口は266人まで減少**

(国立社会保障・人口問題研究所(社人研)推計準拠)

【人口減少の影響】

- ◇生産年齢人口の減少に伴う労働力不足、地域経済規模の縮小
- ◇担い手の減少に伴うものづくり分野の技術・技能の継承困難
- ◇老年人口増加に伴う医療福祉分野の労働力不足、社会保障費の一人当たり負担増
- ◇地域活動の担い手の減少に伴う地域コミュニティ維持・存続困難、地域文化の継承困難

めざすべき 将来の方向

- I 五木村の発展を支える産業と、魅力ある雇用を創出する
- II 五木村への人の流れを創るとともに、人材の流出を抑制する
- III 村民の結婚・出産・子育ての希望を実現する
- IV 村民が誇りを持ち安心して暮らし続けられる地域を創る

【将来展望の仮定】

- ◆合計特殊出生率
(出産に関する希望の実現) 2030年 1.8
2040年 2.0
2045年 2.1

- ◆社会減
(結婚、育児、U・Iターンに関する希望の実現)
2020年 社会増と均衡

【将来展望】

◆2060年の人口 558人

五木村総人口の将来展望

